

まちかど★ ネットワーク

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域話題をお届けしています。
広報広聴課 ☎55-2700へご連絡ください。

初夏の訪れを告げる蛍を守る

「岩本山ほたる愛好会」

ことしの市民暮らしのカレンダー、六月の絵手紙は蛍。蛍はきれいな水が流れる場所で、優しい光を放ちます。

蛍が飛び交うところは、市内各地にあります。永源寺の西側、岩本山のふもとにある矢田沢もその一つで、ここの蛍を守っているのが「岩本山ほたる愛好会」です。

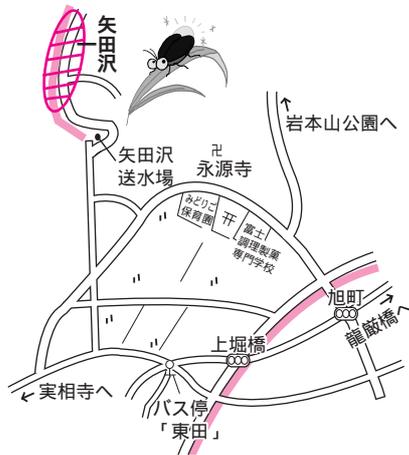
会長の山崎文雄さん（岩本）は、「昔、このあたりでは、季節になると、たくさんが飛んでいました。現在は、田んぼのあぜ道がコンクリートになったり、農薬が散布されたりしているので、蛍の数は減ってしまいました。しかし、二十年ほど前に蛍を守るうと会が発足し、今では蛍が見られる場所として、知られるようになりまし。皆さんが蛍を見て喜ぶ姿を見るのはうれしですね。矢田沢の蛍は、養殖されたものでは



遊歩道も整備されている岩松北地区の矢田沢

ブームアツプ

ふじ



なく、自然発生した蛍なので、蛍のえさになる巻貝をふやすなど、蛍のすむ環境づくりに努力しています。矢田沢で蛍が見られる時期は五月下旬から六月二十日ころまでで、時間は大体十九時三十分から二十時三十分です。昭和六十年ころから毎年六月の第二土曜日に「ホタルまつり」を開催してきました。ことしは「ホタル鑑賞会」に名前を変え、六月十二日に行います。毎年この催しには三千人を超える人が集まり、とてもにぎわいます」と話してくれました。自然の産物は私たちの心を和ませてくれます。いつまでも、きれいな水のある自然環境とともに、蛍を守り残していきたいですね。皆さんも初夏の夜、蛍の放つ優しい光を見に、出かけてみてはいかがでしょうか。



第23回コスモス文学賞の掌編小説部門で第一席に選ばれた

渡辺 寛さん

(柚木)



コスモス文学賞は、長崎県に事務局があるコスモス文学の会が年一回行っている文芸コンクールです。小説や随筆、童話など十一の部門が設けられています。

渡辺さんは、四百字詰原稿用紙二十枚以内が条件となる、掌編小説部門に応募。ことしは全国から三百四十四編もの応募があり、その中から見事、第一席を受賞しました。

渡辺さんが初めて小説を書いたのは、高校教師をしていた三十一歳のとき。二年ほど書いていたが、仕事の忙しさなどにより筆を置いてしまいました。その後、いつか書きたいと思い続けていたが、再度筆を持ったのは、退職後の十五年ほど前でした。渡辺さんは「約三十年の空白期間があったせいか、最初はなかなか筆が進まず、大変でした」と書き始めたころを振り返ります。退職してしばらくは、詩や随筆を書いていましたが、数年前から小説も書く

ようになりました。今では、何か文章を思いつくと、忘れないうちに広告の裏などに書きとめ、それをもとに小説を書いています。

現在、渡辺さんは執筆活動だけではなく、市民文芸の編集委員や、書く楽しさを伝えるために、文芸入門講座の開催などもしています。今回の受賞作品について渡辺さんは「昨年の終わりに二か月くらいかけて仕上げました。読み返しては手直しを入れ、じっくりと書き上げました。作品が段々よくなっていくのを感じることができ、手直し作業は楽しかったですね。応募したきっかけは、作品を知人に見てもらい、コンクールに応募してみたらと言われたことからです。受賞の知らせはとてもうれしかったですね。趣味で書いてきた今までを認められたように感じました。今後の励みになります。今は書くことが楽しくてしょうがないですね」とすてきな笑顔で話してくれました。